

出題 螢雪ゼミナール

岐阜駅前校・築樋拓真



国語を様々な側面からみて、日本語の面白さや深さを知ってもらえればと思います。

## 問題【国語】

今日、七月二十一日は日本三景の日です。次の問いに答えなさい。

(1) 日本三景は松島と天橋立とあともう一つは何でしょうか。

(2) 「奥の細道」の中で松島を訪れた松尾芭蕉が詠んだ俳句を答えなさい。

## 豆知識 雑学コラム

### 日本三景と文学

日本三景とは日本各地の景色がきれいなところの中で特に素晴らしい、松島(宮城県)、天橋立(京都府)、安芸の宮島(広島県)の三つの観光地をさす呼び方です。これは、江戸時代の有名な儒学者林羅山の息子である林春斎が日本各地を旅して記した「日本国事跡考」の中で命名されたものです。

この林春斎の誕生日が七月二十一日であることにちなみ、今日七月二十一日が日本三景の日と定められました。この日本三景の景色の美しさは、林春斎が紹介する前から多くの人に知られており、多くの文学作品に登場しています。小式部内侍が詠んだ「大江山いく野の道の遠ければまだふみも見ず

天橋立」という和歌も有名ですよ。

小式部内侍の和歌と並んで、日本三景について、有名な話として松尾芭蕉の「奥の細道」で松島を訪れた時のエピソードだと思っています。どのようなエピソードなのか見ていきましょう。

芭蕉と松島と言えば、芭蕉は松島の美しい景色をつましく説明することができずに、ただ松島を連呼する「松島やああ松島や松島や」という句を作ってしまったというエピソードを聞いたことがあるかもしれません。実はこの話は「奥の細道」には書かれていない話で、また、「松島やああ松島や松島や」の俳句も芭蕉ではなく、江戸時代後期に田原坊という人物が詠んだものです。実際の芭蕉も、松島を見て、美しい景色をつましく俳句にできないところ

までは同じですが、「予は口とちて眠らんとしていねられず(私は句作をあきらめて眠ろうとするが眠られない)」と俳句を詠まずに松島を発ってしまいました。

奥の細道には載っていませんが、芭蕉は松島について「島々や千々に砕きて夏の海」という俳句を詠んでいます。この一句が「奥の細道」に載らなかった理由は分かりませんが、おそらくその出来に満足できなかったのでしょう。芭蕉も言葉にできなかった松島、ぜひ一度訪れてみたいものですね。

## 【解答】

いよいよ連

小式部の和歌「大江山の道」(2)

芭蕉の俳句「松島の道」(1)